

平成27年度第2回 角館地域審議会議事要旨

日 時 平成27年12月16日(水) 15時10分～17時10分

場 所 角館西側庁舎 2階 第4会議室

出席委員 小林郁男会長、後藤瑞子副会長、草薨隆委員、石橋正則委員、津嶋紀委員、黒澤昇委員、柴田政幸委員、石川東平委員、新山睦子委員 9名

欠席委員 能美忠堯委員、吉田慎一委員、藤原悟委員、高橋栄委員 4名

仙北市関係者

副市長 倉橋典夫

総務部長 藤村好正

角館地域センター所長補佐 千葉正

事務局

定住対策推進室室長補佐 阿部聡

- 会議次第
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 案件
 - 1) 総合計画基本構想(案)について
 5. 閉会

内 容

■会長あいさつ

皆さんご苦労様です。

角館地域審議会の2回目の審議会ということになります。限られた時間のなかでの、膨大な審議ということで、なかなか難しいこともあるかとは思いますが、皆さんの忌憚の無いご意見をいただきながら、そして、この次の審議会は最終的な意見ということで反映されるのではないのかなと、とても重要な会議になるかと思しますので、そういったことも踏まえながら宜しくお願ひしたいと思ひます。

■副市長あいさつ

ご苦労様です。年末のお忙しのところお集まりいただきありがとうございます。

2回目の地域審議会となりますけれども、今日は皆さんに総合計画の案ということで、事前に資料を配付させていただきました。

また更に、総合戦略の案と人口ビジョンの案を配付しておりますけれども、合併してから10年が経って、これからの10年に向けての総合計画を策定中ということです。

そして、総合戦略のほうは、人口減少に伴います対策をどのようにするかという、全国の自治体で行っている訳ですけれども、これは5年間の具体的な人口減少対策についての色々な事業や対策を取りまとめたものでございます。

現在は、パブリックコメントを行っております、来年の1月中には総合戦略のほうは確定させたいと思っております。

そちらは、総合戦略策定委員会を設けまして、議論をしていただいておりますけれども、角館地域審議会の新山さんと草薨さん、千葉さんにも総合戦略のほうにも参加していただいて、色々な提言をいただいているところでございます。

そちらは、かなり具体的な事業を提案している訳ですけれども、総合計画はそれと整合性を持たせたものに、当然のことながらなる訳でございますけれども、こちらは10年間の計画ということで、短期的なものから、中・長期的なものまでを含んだ仙北市の今後の在り方を示す指針になると考えています。

今日は午前中に西木の地域審議会を開催いたしまして、そこでも色々な提言をお聞きしてきたところでございます。

角館の皆さんからも同じようにご意見・ご提言をいただきまして、更に内容を詰めていきたいと思っておりますし、1月には合同の地域審議会での最終的な取りまとめを行いたいと思っております。

総合計画も、何れ素案がまとまりますと、パブリックコメントということで住民の皆さんに見ていただいて、ご意見を聞く機会を持って、今年度中に策定して、次の28年度からスタートさせたいと思っております。

限られた時間ではありますが、皆さんから積極的なご意見をいただけますよう宜しくお願い申し上げます。

■案件

1) 総合計画基本構想(案)について

資料1. 2に基づいて説明。

小林会長

資料説明について分かりました。
そうすれば、委員の方々からご意見を頂戴したいと思います。
それぞれが様々な分野に長けている方々が委員になっていきますので、どれでも良いんですが、事務局の説明と、或いは資料についての中身、更に、付け加えがあったところなどご意見があれば頂戴したいと思います。

柴田委員

2回目になって、こんな質問をするのもおかしいかと思いますが、ここにある(案)というのは、市役所の中のどれ位の人数が関わって、どんな作業をしているものなののでしょうか。

事務局 阿部

人数と言うよりも、まず骨格の部分は、事務局である定住対策推進室で作りました。ただ、こちらでは、それぞれの専門の部分については分からないことがあるので、作ったものを一度、各課に確認をしてもらって、それによって作り直して、そうやって作り込みをしています。人数にすると、全職員が関わっていると言えなくもないです。

柴田委員

何が言いたいかと言うと、こういうのが出てくる訳ですが、きつい言い方になるかもしれませんが、市役所のなかで、どれ位の人がこれを理解して、どれくらいやっているのかが疑問です。

例えば学校であれば、というか私は学校のことしか分かりませんが、校長が毎月毎月「これこれはこういうことです」と具体的に言って、やっている訳です。

と言うのは、色んなものを見ていったとき、我々町民よりも、専門の方々が理解していなければ何ともならないということで、どのように作られているか聞いた訳です。

作っても、具体的に実施するのは行政中心にしながら、地域が関わっていくことになるでしょうから、行政の方々が、市民に対して説明出来るようにならなければ、いくら作っても机上のものになると思います。それで「出来ませんでした」とかになると思います。

目新しいものをここにポンと載せて「やりましょう」と言われても、それで良いと言えば良いのですが、いつも言っているのですが、まずこの市に欲しいのは、昔から言われているのですが、若い人なんです。合併についても、人口を増やすことが目的にあったと思います。でも人口は減っています。増やすにはどうするかと言うと、地場産業とか色々あるんでしょうが、この10年間の結果は、私には見えなかった訳です。豚を飼ったとか、イチゴを始めたとか・・・。

なので、何が問題になるかと言うと、政策はあるけれども、人づくりもしなければいけないのではないかということです。

もう一つは、これに対する専門家を作らなければいけないということだと思います。

新聞を賑わすのは、角館町の人ではない人が、外からぼんぼんと来て頑張る訳です。悪くはないのですが、・・・県外で頑張っている人は誰もいないのかと言うことです。

ようするに、人材がいなければ人材を作らなければいけない。長い目で見れば作ったほうが得な訳です。外から来た人が色々意見を持って、それで帰って終わりということになる訳なんですけれども、そういうところが、私はいつもこういうのを見ていて、堂々巡りをしているばかりでいいのかなど。

行政は、こういうことは出来る。皆さんは何か出来ないか、というのがないから、いつも同じことを繰り返している。

この文章をみるとそういうふうを感じる。
でも、根本的に出来ていないのは、いつも同じところ。
前と違っているところはありますが、はたしてどれだけ出来るかという
と、これまでよりも厳しいのではないか。
ただ、今回は私は、角館町だけではなくて西木も田沢湖も、みんな集
まったことなので、人数が増えた訳なので、色んな人間が増えたこと
だと思っんです。
なので、もっとこう、非常に言い方がおかしいのかもしれないので
すが、市役所のなかでも「これだ！」という人を育てていかなければ駄
目ではないのかということが根底にあります。
そして、仙北市は、外と違ってこんなところが魅力的だということ
を出していかなければ人は増えないと思います。
この計画が悪いという訳ではなく、このまま何年かやっても、また出
来なかったとかというふうになるのではないかと思います。
例えば、観光だったら、人は来るけど潤っていない。それがどうして
かかというと、角館でなければ買えない、角館でなければ食べられない、
角館でなければ見られないものがあるかということ、見るものはあるん
ですが、角館でなければ買えないという物はない。
となると、リピーターは来ない訳です。
根底として、そういうことがあるのであれば、そういった物を作れば
良い訳です。それに対して行政が何をやっているかと言うと、私には
それは見えない訳です。
例えば、横町の角に店が出来ましたが、観光客の姿は見えない訳です。
なぜかと言うと、地域の人たちが入る店ではないからです。売れると
言うことは、地域の人が入っているからこそ外の人たちも入る訳です。
地域の人が入らないところに、人をいれようとしても、入る訳がない
んです。地域の人が行っている、だから美味しいだろう、なら行って
みよう、となるんですが、観光客がいなくなると閑散としているとい
うのでは、あれは何だったんだろうということ。
なら、何の為に作ったのかということ、市の為ではなくて、何か他の為
に作ったのではないか、というふうになっていく訳です。
あそこらへんを歩いていると、いつも寂しい感じがして見えています。
私がそこの店に入って買う物はないんです。
そこらへんの根底的なところをきちっと出てこなければ、いくら議論
をしても厳しいのではないかと。
もっと言えば、例えばここに「学校の図書を充実しよう」とありますが、
これはもう文科省から来ている。お金が来ているのに使われてい
ない。
なぜなら、一般会計のなかで、他の物に化けているんです。だから、
学校には本は無いんです。

読書が出来る人間を増やそうと言うなら、司書をおくとか、予算をちゃんとつけて本を買うなりして、やっているかと言えば、私が教師を辞めてから5年が経ちますが、何年も前から学校に本は来ていないんです。なぜなら、他のことに使われているからです。これを指摘する人がいないから、毎年こうなっているんです。

なので、これを記載しても、根底が変わらなければ、どうにもならないんです。

そこらへんが、非常に発展性の無いように感じるという意見なんですけれども、そういう意味で人作り、専門家作りをはめていかないと机上のプランで終わるのではないかと思います。

これだけ人口がいるんですから、・・・。

仙北市から出ていった人で活躍している人がいるじゃないですか。

地元で協力しようとしてくれている人がいるじゃないですか。

そういう人を、なんでこう、私は良く分かりませんが、なんで市役所のほうでは何をやっているのかとなど。

来る人は皆、他県の出身の人たちで「良いところですよ」と言うけれど。

果たして、それで良いのかなという感じがするんです。

意見にならないような意見ですが、何となく、こう、この案は良いのですが、でも、ひとつひとつが、作った人にどれだけ浸透して、どれだけ達成しようとしているのかというのが、非常に疑問に感じます。

小林会長

柴田先生が言いたいことは、実行するための人づくりだとか、プラン作りだとか、或いは、市役所のなかの体制だとか、そういうことに問題があるということに思いましたが如何でしょうか。

柴田委員

そういうことです。

倉橋副市長

市役所職員の意識改革であったり、市役所内の、このような計画作りへの取組であったりについては、只今ご意見を伺いましたので、重く受け止めたいと思います。

当然のことながら、それは実行していかなければならないことだと思います。

そして今回、今日は総合計画の基本構想ということでお示ししていますが、基本構想に続くのはもっと具体的な事業になっていきますし、更に、3年間の実施計画については、事業の財政的な部分も含めた計画になっていきます。

それで、それらは全て、お手元に配付している総合戦略と連動していくこととなります。

今回の総合戦略について、今までと一番違う部分は、K P Iという目標値を全ての項目について設定しています。

観光客についてなら、何人増やすとか、人口については、何年後に何人を目指すとかです。

この達成度に応じて、国が交付金を交付する仕組みになる予定です。これは、毎年検証して、もし達成出来なければ、達成出来るようにしていかなければならないことになると思います。

これまでの計画のように、作るだけというようなことにはならないものと考えています。

これからは、このように目標を定めて、いかにしてそれを達成していくかによって、国からの交付金も違ってくるとい時代になってきています。なので、我々も心して取り組まなければならないものと考えています。

先ほどのご意見の具体的な話の部分は、町屋館のことと思いますが、実は、今年の途中で、町屋館の社長が交代しまして、新しい社長が来られたとき、やはり先生と同じように、地元の人に来ていないということをはっきりと仰っていました。

当初の進め方やコンセプトが間違っていたのではという話をされてきましたし、市とも、もっと連携しながら、地元の人に来てやすい、或いは地元の物が置いてあるという状況を目指したいということ話をされてきました。

市としても協力していきたいと思っておりますが、まだ具体的などころは伺っていないところでして、今後は、先生の発言にあったような方向に進んでいきたいと思っております。

学校の本については、少しずつですが配っていますのでご理解のほどを宜しく申し上げます。

小林会長

次に石川さんお願いします。

石川委員

25ページに観光振興の部分がありますが、一番下に「市民や事業者が仙北の歴史や文化を学ぶ機会を提供し云々」とありますが、私も今夏から、団体のお客様に関してですけれども、歴史や文化の講習会を、1時間30分ほどですが、お客様に聞いていただいて、泊まった翌日に、そこを観光していただくというパックを、業者会や県外のお客様に体験していただきました。

好評でしたので、続けていきたいと思っております。

30ページに、「連携・交流の推進」がありますが、長崎県大村市や茨城県常陸太田市などと交流を深めているところで、10月には、大村市のシンガーソングライターにお越しいただき、伝承館でコンサートを開催しましたが、とても感動しました。今後も続けていきたいと思っております。

29ページに「新たな文化と創造の発信」とあり、市民会館の活用に

	<p>ついて書かれています。が、伝承館や交流センターも活用していきたいので、施設を限定するような表現ではなくてもいいのかなと思いました。</p> <p>例えば、集客施設の環境を整えるとか、が良いかなと思いました。宜しくをお願いします。</p>
小林会長	<p>そうですね。施設を限定しないような表現が出来るように事務局にお願いします。</p> <p>次に新山さんをお願いします。</p>
新山委員	<p>良くまとめられていると思います。ありがとうございます。</p> <p>根本的な問題としては、人作りというか、今の学生の意識の改革を進めていかないと、合併して10年経っても、市民間では、角館に来ることが他市町村に行くというような感覚な方がまだまだいるなど感じたことがあります。3町村は、一つの市であるという意識改革を促していく必要を感じていて、これについて、学生への教育の場を増やして、交流などが進むような企画がもう少しあっても良いのかなと思います。</p>
小林会長	<p>合併して10年経ちましたが、旧町村の隔たりというか、そういうものが残っていると感じていらっしゃるんですね。</p>
新山委員	<p>オール仙北とか、オール秋田として打ち出していくための活力がないとか、まとめられないでいる仙北が存在しているような気がします。</p>
小林会長	<p>もっと交流を増やして、意識改革をしていく必要があるということですが、如何でしょうか。</p>
倉橋副市長	<p>合併して10年経ちましたので、オール仙北でなければなりません。今の発言について加味して文章化したいと思います。</p>
小林会長	<p>黒澤委員をお願いします。</p>
黒澤委員	<p>このスケジュールを見ると、今日は2回目ですが、正月明けには合同の審議会になると言うことで、合同の審議会は意見を反映出来ますか。</p>
倉橋副市長	<p>パブリックコメントの反映などもありますので、合同審議会の意見も反映されます。</p> <p>最終的には、議会の意見を反映させていきますので、それによつての変化もあります。</p>

黒澤委員

石川委員と内容が近いので、少しプラスするようなお願いになります。観光のなかにも、例えば、会議形式の場を持つことで集客をして、その会議に参加された方々に観光を楽しんでもらうという集客の仕方があると思います。

その為には、先ほどもありましたが市民会館とか、コンベンションホール的な物も言葉としてあるといいかなと思いました。

会議の中身は、スポーツに関することでも良いでしょうし、文化的な物でも良いと思います。色々な、全国的な会議や大会を開催することによって観光に結びつくということがあると思います。

もう一つとして、私は観光関係の部門で参加をさせていただいておりますので、観光の部分について話をさせていただきます。

角館のなかの観光の目玉と言うか、お土産には樺細工があります。数軒の工場では、色々な試作をされていて活力があるようにも見えるのですが、正直なところ、原材料が足りていない状況です。

さきほど、国有林を多目的に使おうという話がありましたが、是非とも樺細工のような産業を守る為にも、山桜の保育だとか、そういったことも必要になって来るのかなという思いがあります。

それと、これは情報としてなのですが、私は林業に関することもやってまして、仙北市のなかには県内でも5本の指に入る大きな林業業者が3～4社あります。その中で、ここ1～2年で話が出てきているのが、バイオマス発電の話で、秋田の港の近くに大きなバイオマス発電をする工場が、来年、作られます。これに関わる木材の供給が、仙北市のなかでも2社で、かなりのウェイトを占める木材を必要としています。当然、ここ仙北市から出て行く木材の量はかなりのものになると推測していますが、当然ながら、山の荒廃も進む可能性が出てくるので、そういうことも、ここ10年の計画のなかには加味をしながら、山間部や農村部を守るべきことをしていかないと、どんどん荒廃が進んでいくというようなことが考えられますので、それも一つ計画のなかに入れていただければ有り難いと思います。

小林会長

黒澤さんの意見のなかには、色々興味深い話がありました。

例えば、今の話での樺細工は原材料についてでしたが、これからはいよいよ国有林が活用出来るのであれば、地域づくりに活かしていけるのかなと思います。

仙北市の国有林はどれくらいありますか。

倉橋副市長

市域の6割が国有林です。

小林会長

そのなかで、樺細工に使用されているような山桜はそれなりにあるの

でしょうか。

倉橋副市長

詳しくは分からないのですが、樺細工の話があったときに、原材料の確保の為、原材料を採る業者さんは、桜が咲くころに東北という広い範囲で仕事をしているような話は聞いたことがあります。

小林会長

私も詳しくは無いのですが、角館の場合、相当前に手を付けた状態で、一度採った木からまた採るには相当な年月が必要なはずですが、昔の仙北郡の範囲だと、また採れる位に桜が育って来ているのではないかという気がします。

黒澤委員

再生しない木もあります。
再生しない木からは、二度皮を採っています。
なので、1度剥いでしまった木は、なかなか皮は再生しません。

小林会長

調べてみる価値はあると思うのでお願い出来ないでしょうか。
最近では遠くに行って採っている話を私も聞くのですが、近くで採れる時期というか、可能性があるのかもしれない。

倉橋副市長

調べてみます。樺細工の原材料の確保は課題であることは承知しているところです。

黒澤委員

何年か前に、長崎県大村市と提携を結んだときに、古城山に山桜を植えたことがありました。
あれは上手に育たなかったのですが、あのような事業が上手くいくと、10年もかからずに皮を採れるらしいです。それが出来ると、どんどん利用していくことが出来ると思います。

藤村総務部長

40年くらい前のことだと思います。角館時代に原材料の確保をどうするかというようなことがあって、町有林に山桜を植えたということがあって、確か去年か一昨年に、使ってみようということで、試してみたはずなのですが、条件が良くないところに植えていたせいか、生育が良くなって、使えるような皮がなかなか無かったという話は聞いたことがあります。

当時は、町有林だけだったと思いますが、これからは、先ほどの話にもあったように特区を活用した国有林の活用も選択肢としてあることだと思います。特区の活用は、自治体が行うのでは無いので、例えば、樺細工に関係する組合だとかの形で、民間が主体という形を採って、国有林を借り受けしてやってみるというのはあるかと思います。

津嶋委員	<p>関連ですが、角館町時代に、広久内のある場所を貸してに桜を植えたことがあります。</p> <p>手入れが良くなかったです。手入れが良くない為に、桜がよく見えないような状態です。</p> <p>続けて話をさせていただきますが、「スポーツの推進」とありますが、私は広久内の高齢者のバレーチームを作っています。勤労青少年ホームを借りて練習をしています。大仙市を合わせると17チームぐらいあります。</p> <p>体育館が無くて、角館に来てくれと言えないんです。</p> <p>外に出ていくばかりなんです。</p> <p>角館は有名な場所ですが、スポーツに関しては、人を呼べないんです。</p>
新山委員	<p>それを、角館では無く、オール仙北で考えることは出来ないのでしょうか。</p> <p>例えば、スポーツセンターに行って、温泉に入ってくるとか出来るのではないかと思います。</p>
津嶋委員	<p>確かに、高原に行くと立派なスポーツセンターがあります。</p> <p>しかし、お年寄りのスポーツなので、お年寄りが車を運転して高原に行くというのは、私にすると難儀なことなんです。</p>
新山委員	<p>仮に、そこに何らかの交通機関があれば、例えば花葉館のように送迎のバスを出すとかあれば、オール仙北という考え方で進んでいけるのではないのでしょうか。</p>
津嶋委員	<p>単純に言うと、角館に体育館が欲しいということです。</p>
小林会長	<p>この計画のなかに、総合体育館の整備について記載がありますが、これは、どれを意味しているのでしょうか。</p>
倉橋副市長	<p>市として、総合体育館を作りたいという意味です。</p>
小林会長	<p>何時までに、何処にというのはこれからでしょうが、津嶋さんが希望していることが盛り込まれている内容にはなっています。</p>
倉橋副市長	<p>お話があったように、公式の大会が出来るような体育館を作りたいというのがこれの考え方です。</p>
小林会長	<p>他には。</p>

津嶋委員	<p>高齢者は角館から出て行くことは無いと思いますが、若者については、先ほど出会いの場を設けることと、子育て支援については、とても大事なことだと思います。</p> <p>若者に対しての支援をして欲しいと思います。</p>
倉橋副市長	<p>先ほど、西木の地域審議会でもお話しましたので、同じことをお話ししたいと思います。</p> <p>現状では予算は確定してはいませんが、来年度から子育てということで、まずは医療費について、今は小学生まで無料で、中学生については入院の費用と歯科費用が無料になっていますが、来年からは、所得制限はありますが、中学3年生まで医療費を無料にします。これについては、県でも同様の取組をしているようです。</p> <p>その他に仙北市として、保育園の第2子・第3子を無料にします。</p> <p>あとは、放課後児童クラブを小学校で実施していますが、今は一人あたり月4千円なんですけど、これを半額の2千円にします。</p> <p>それから、市の奨学資金制度があるのですが、これについて、一定の条件はありますが、市に戻ってきた場合、奨学資金の返還を免除することにしたいと思っています。</p> <p>他にも色々ありますが、これらの取組で、何とか子どもの数を減らさない、定着を図るということをしていきたいと思っています。</p>
小林会長	<p>それでは、石橋さんからお願いします。</p>
石橋委員	<p>伝承館は、建ててから40年近くなっていると思います。</p> <p>伝承館のような鉄筋コンクリートの建物は50年位で建て替えなど色々なことを考えていかなければならないだろうということが、伝承館の運営審議会でもありました。</p> <p>総合計画は10年間の計画ですから、10年後の伝承館の建て替え等について、考えてもらっていたほうが良いのではないかとということが運営審議会でありました。</p> <p>これと同時に、先ほど駐車場の話や、町屋館の話がありましたが、駅から外町を通過して武家屋敷に行くのが、一番の観光ルートですし、商業の活性化にもなると思います。</p> <p>空き店舗や空き家が増えて来ている。将来の観光を考えた都市計画が必要だと思います。</p>
小林会長	<p>続いて草薨さん。お願いします。</p>
草薨委員	<p>10ページに「小さな国際文化都市を目指して」とあり、その下に説明がありますが、「国内はもとより・・・」と掲げているので、こ</p>

れらをどういうふうに結びつけていくのかを考えた場合に、例えば、25ページの「観光振興」のなかにもありますが、角館に来たときに何を感じるかと言えば、みちのくの小京都とすれば、今、一生懸命に頑張っている「サムライの街」があります。前回もそのような話題がありましたので、このような活動のイメージアップも大事なのではないかと思います。

田沢湖は、たつこの街とか。西木は云々など、それぞれの街のイメージをアップするような戦略が必要だと思います。

それに伴うところの、国際会議の開催。或いはイベント。これらの開催には施設が必要でしょうから、施設整備をリンクしていくような戦略が必要だと思います。

それから、例えば14ページでは、「情報発信」があります。

今は、情報の時代なので、ネットを活用した総合的な移住情報発信を行っていくことが重要ではないかと思います。

23ページでは、1番のところに「担い手への農地の集積を促進します」とありますが、今は国のほうでも、農地の中間管理事業をやりますので、それを活用することも必要ではないかと思いますし、3番では「ブランド化や産地作りの推進」ということで、地域一体で食育を進めながらと言うことで、地域ぐるみで進めながら、当然、仙北市だけではなくて、関係団体と連携を組みながら進めていくということも必要ではないかと思います。

それから、先ほどの柴田先生の意見に関連しますが、この審議会のスタートのとき、全員が田沢湖に集まったときにですが、これまで仙北市は10年を経て、次なるステップを踏むために、今後の10年を目標に進めて行きたいという話がありましたが、合併したときからの10年間は、先輩方が集まって、こういうのを計画し、進めてきたと思います。そのとき私も話しましたが、やはり、検証しながら次のステップに進むのが順序であると思いますので、一生懸命に案を作ったものに対しても、やはり、その都度検証しながら進めて行く体制づくりをお願いしたいと思います。

併せて、今度は仙北市一体となった審議会となるとと思いますので、我々も仙北市と言う視点から物事を発信しなければと思います。

倉橋副市長

地域審議会については、合併後10年ということで、今年度で終わることになります。

今、草薙さんがお話になったように、別の、仙北市一本の形のものを作りたいなと思います。そして、検証する仕組みを作りたいと思います。

会長

後藤さんお願いします。

後藤委員

観光の面から、今年の秋にインバウンドで、タイからのお客様が大変多く、その方たちのなかで、前は海外の代理店からの連絡が多い中で、今回、秋田県が中心となって集めてくださって、それに関係して大手の代理店が中心になって集めてくれたお客さんがとても多くて、その方たちが何を望んでいるかという、田沢湖の湖、乳頭の温泉、西木の農村体験、角館のサムライハウス、これらがポイントとなっている内容でした。同じ添乗員さんが何度か来てくれているのですが、段々とグレードアップして来ているという話をいただいて、こういう期間が過ぎても、どんどん、角館、仙北市にお客さんを連れてきてくださいねという話をさせていただきました。

それが、先ほど新山さんが言ったオール仙北というような形で、ツアーが作られるというのは嬉しいなとつくづく思いました。

以前は、角館、男鹿、白神産地みたいな感じだったのですが、それが、仙北市だけで全部を受け入れられるのはすばらしいことだなと感じました。

皆さん多分、見たと思いますが、じゃらんの人気ランキングに、以前は乳頭温泉郷だけだったのが、乳頭・水沢・田沢湖高原という3つが繋がっているというのが、すごいなと。くつつくと、こんなに強いものなんだなと思いました。角館から車で45分で行けるというのは、外国から何時間もかけて来る人にとっては45分でそんなに良いところがあるのかというふうに思ってもらえるようで、角館は良いところにあるなと、つくづく思いました。

先ほど、石川さんが話をしていたように、やはりコンベンションホールが無い。津嶋さんが言ったように体育館が無い。色々な観光素材があるのに、角館は欲張りだなと思われるかもしれませんが、やはり、こんなに良い土地に住んでいるので、建物も作ってもらえたらなと思いました。

それと、先ほど定住の話で、広報を見ていたら、自分の家に縁が無いので気にしてはいなかったのですが、このような活動があるんだなと、今日ここに来るということで、慌てて婚活のススメを見て来ました。これはすごいと思います。我が家にも年頃の娘がいますので、ついつい、このピンク色の桜の模様に惹かれてしまいまして、こういうことをやっているんだなと思って、感心しました。

小林会長

皆様方から貴重な意見をいただきました。

柴田委員

武家屋敷の住民としては、大変だなと思うことが一つあります。私たちが小さいころは、当然のようにここに住み、ここを守ることが普通でした。行政から金をもらわずにやっていくということで、

だからこそ50年残ってきたと思います。

簡単に言うと、あそこに住んでいる年寄りも、武士は食わねど高楊枝とも言いますが、「自分でやる」という意識がとても強くて、そういうのをすり込んできました。現在、役場から私の家まで、4～5軒がありますが、誰も住んでいません。

昼は、観光客がいるので人通りもあるのですが、夜は誰もいない。

自分も、おかしな話になりますが、現役のころは、我慢をすることが出来たのですが、年金暮らしになってくると、維持していくことが大変になってきています。

自分の代はいいのですが、次はどうなるんだろうと、自分の町内が不安です。60代以上がとても多くて、若い人はとても少ない。一番怖いのは、武家屋敷は良いと言われながら、何故良かったのかと言うと、住んでいる人間がプライドを持って自分たちでやってきたことなんです。今の観光客は目が肥えているので「おたくは庭師が必要ですよ」とか言われたりします。家の前を掃き掃除していると「町に頼まれているんですか」と聞かれたりして、「自分の家なので自分でやっている」と言う、仙台は全部町がやってくれますよ、と言われたりして、そんな問題では無くて、そういう人作りというか、地域の人たちが自分たちで人間を育てていかなければ、ある日急に、ポンと弾けてしまいそうな気がします。

武家屋敷には、目に見えない暗黙の了解がたくさんあります。ある意味で住みにくいんです。それを分かっているなければ、20年以上住んでいない人は文句を言うなど言われます。

何をいいたいのかと言うと、他力本願の観光ではいけないということです。そして、本物を継続していくことが大事だということです。

今は良いのですが、これがずっと続くかと言えば、やはり地場産業がきちんとして、そこに住む人間がそこを守っていかなければいけない。金銭的では無くて、精神的に、そこに住める状態を作りたい。なので、困っているのは、車の規制です。救急車やタクシーも来られない。普通どおりに住みたい。

若い人を育てることが、とても大きな問題だと思います。

行政に、ああしてほしい、こうしてほしいとは言いません。言いませんが、それが中に住んでいる人間の実情です。

小林会長

ほかに何か。

草薨委員

ベンチャーズが好きで、生保内まで聴きに行きました。それから、農協で立派な歌手を連れてくるとき、角館は全然関係しない。立派な歌手を連れてくるときは、大曲なんです。

先ほど、伝承館の建て替えの話などもありましたが、中途半端なもの

ではなくて、角館に良いものが欲しい。
スケールの小さいものでは無くて、角館に人を呼び込めるものを建てて欲しい。

小林会長

他には。
無いようですので、私から。
皆さんの意見は、全てが大事だと思います。
資料に書かれていることも、とても大事なことばかりだと思います。
ただし、これらが実際にどういう形で進んでいくか、実現出来るかが一番危惧するところです。
役所でも、専門的な人材が各所にいながらも、みんなに内容を知ってもらいたい。
自治体というのは、全国どこでも、今は大変だと思います。国も例外ではないと思います。地方交付税については、今までは、国が地方に預けて、好きなことをやれという交付の仕方もあったと思います。今は全然違うようなんです。何をやるかによって、じゃあ、これくらいは出しますよ、という、いわゆる結果主義というか、そういうようなやり方によって変わってきていると思います。
それと、少子高齢化で、市がなりたないという状況です。
色々な意見の中で、実は文化財の関係で、自主防災の関係が10数年を経過しています。私のところの自主防災は、市の中でも早いほうです。今、各部落などで一生懸命作っていますが、我々が10数年前に作ったときとは、内容がそぐわないような感じです。これから、少子高齢化が進んだとき、町内すらも維持出来なくなったとき、防災が出来るのか。
今のルールでは、会館がなければいけないとか、町内の8割9割の参加が必要だとか。出来るところは出来るんでしょうが、段々と出来なくなってくると思います。
条例だと思うのですが、見直しが必要だと思います。

倉橋副市長

それぞれの地域に合わせたルール改正が必要だと思います。

小林会長

全てを網羅してルールを作ることは大変だと思いますが宜しくお願いします。
しかし、仙北市は、オール仙北市で考えると、温泉があり、山があり、武家屋敷があり、湖があると言うことで、他市町村と比べると相当に羨ましがられます。

倉橋副市長

仙北市の魅力に関しては、今議会の予算に、台湾、タイ、インドネシア方面を重点的にしたインバウンド事業に、これは国の交付金ですが、

議員の皆さんには、これらについては、秋田県の中で、仙北市がこれに取り組みなければどこがやるんだ、という話をさせていただいております。

条件が一番整っている地域です。

国内の人口減少で、色々なところの市場の縮小があります。農業にしてもそうです。観光についても、国内の人を対象にしているだけでは、これからは勝負にならないので、当面は東南アジアに目を向けて事業展開していきたいと思っています。

是非、皆様のご協力をお願いします。

柴田委員

色々な言語を話せる人が必要になってきます。ある中学校にいたとき、中国とか韓国とかから来たんですが、おはようときようなら位しか日本語が分からない。秋田市で習ったようですが、この場合、秋田市まで、秋田市からというのも大変でしょうから、地元で何とかなると良いと思います。

小林会長

観光協会では、何か取り組まれていますか。

黒澤委員

今後の検討課題にはなっていますが、具体的にはこれからです。

石橋委員

田沢湖の観光協会の窓口には、英語と韓国語を話せる人がいますね。こちら、英語はほぼ大丈夫ですし、中国人や韓国人は英語を話せるので大丈夫だと思います。

パンフレット類も3カ国語の表示になってきています。

倉橋副市長

角館高校と台湾の高校と、姉妹校の協定を結びましたが、向こうの学校の条件は、向こうに行ったときは、英語を話してくださいということでした。なので、英語を話せないと向こうに行くことが出来ません。向こうの高校生は、英語が上手でした。

黒澤委員

特区の話をよく聞きますが、特区に関しての内容は盛り込まれますか。

事務局 阿部

地方創生の関係の部分などに盛り込まれます。

他の自治体には無いことなので、これを活かしていけるような内容になります。

黒澤委員

先ほども話題になったのですが、例えば武家屋敷で、今まで伝建群の規制で出来なかったことが出来るようになったりする可能性はあるのですか。

石橋委員	伝建群のルールは、どちらかと言うと保護するための規制だと思います。
倉橋副市長	<p>国家戦略特区と言うのは、基本的には国の規制を緩和して、そこにビジネスチャンスを生むということです。</p> <p>なので、伝建群に関係するところは、対象になりにくいです。</p> <p>期限はないのですが、認定された事業が、いつまでも出来ないでいると取り消されるような話をされたりしています。</p> <p>要は、規制緩和された部分で、民間事業者が何かを始めるというのが基本なので、行政が主体的になって何かをやるというものではありません。</p> <p>例として東京など首都圏は、東京オリンピックに向けて、東京駅のあたりを全て特区地域にして、ビルを建てるような、こちらとは、かなり内容が違うものです。</p>
石橋委員	<p>高さ制限について規制緩和したりとか、そういうことのようにですね。</p> <p>先日、市長と話しをして議題になったのは、角館と田沢湖間のアクセスが悪いことです。</p> <p>新幹線だけではなくて、バス路線ももう少し何とかしようと。しかし、羽後交通のバス路線なので、既存の路線を妨害してはいけないというルールが陸運の関係などにもあります。このような規制の中でも、何とかしていけないものかという話をしました。</p>
小林会長	仙北市は、3地域とも、それぞれ良いところがあります。これらに統一感を持たせて、オール仙北としての特色を見せていくのが、難しいことですが、とても必要なことだと思います。
新山委員	<p>角館に生まれて、角館に育って、角館が大好きですが、自分の子どもたちの為には、オール仙北を見据えて進んでいってもらわないと、難しい面が沢山あると思います。</p> <p>秋田県の中での仙北市の位置づけを大事にする必要があると思います。</p>
小林会長	<p>日本全体の10年後の少子化とか、経済状況とか関係して来ると思います。国全体として、人口はまちがいなく減っていくでしょう。これからの10年間で大きく増えたりすることはありえないでしょう。</p> <p>みんなで頑張っていかなければなりません。</p> <p>みんなで頑張っていくこととして、今日の会議は閉会させていただきます。</p> <p>(17:10終了)</p>

